

暑くなったこの時期、野球少年を見かけることが増えました。

今は「玉子」型の体型の私も、以前は6年程、少年野球のコーチをしていました。今回はそんなコーチ時代の話です。

少年野球の試合でも、ベンチから選手達にサインを出すことがあります。

もっとも低学年の時は、「盗塁」、「バント」、「待て（打つな）」、「打て！」程度の簡単なもの。

ある時、3年生以下のチビッコチームが、サインを教えてもらって初めて対外試合をしました。

接戦の終盤、1点を追って攻める我がチームは、**2アウト満塁の逆転の好機**。しかも相手投手は動揺してストライクが入らず、ボールが3つ先行。あとボール一つで押し出し。つまり労せず同点に追いつけるのです。

当然のように監督のサインは、「待て」。ところが、投手がセットポジションに入ったときです。

両チームのベンチの目が点になる想定外の事態が起きました。(◎\_◎;)!?

わが1塁ランナーの盗塁です。なんと！果敢(?)にも2塁に向かってスタートしたのです。

相手ピッチャーは、ビックリしながらも、とりあえず、2塁にボールを投げました。

ところがビックリしたのは、相手投手だけではありません。

それはわが味方チームの、日頃から気の弱い2塁ランナーです。(┌\_┐)

2塁ランナーは、自分の方に猛然と走ってくる味方の1塁ランナーに気圧されて、なんと逃げるように3塁に向かってスタートを切りました。すると、今度は1塁ランナーをアウトにしようとした2塁手が慌てました。

そうです、先の塁でアウトにするのが野球の鉄則。迷いながらも慌てて3塁にボールを投げたのです。

しかし慌てたのは、その2塁手だけではありません。

はい。お察しの通り、わがチームの3塁ランナーです。(T\_T)

2塁ランナーが、必死の形相で自分のいる3塁に向かって突っ込んでいきます。

無我夢中とはまさにこのこと。頭が真っ白になった3塁ランナーは、本塁に向かって突進しました。

2塁手からボールを受け取った相手の3塁手は、自分のすぐ近くまで走ってきているランナーを気にしつつ同点を阻止しようと本塁に送球。・・・そして、それが暴投となりました。(+\_+)

お互いのベンチや応援席から、怒号や悲鳴、そして笑い声が混じる大声が飛び交う中、結局2点が入って逆転・・・

**相手はもちろん味方までもパニックに陥れる、想定外(!?)の1塁ランナーの走塁でした。**

ベンチに帰ってから、原因を作った1塁ランナーが怒られたことはいうまでもありませんが、今となっては、コーチ時代の楽しい(?)思い出の一シーンです。

でも、味方(同僚や上司)も混乱させる、「まさか!?!」と思わせる想定外の事態は、大人の社会でも、また職場においても起こっています。残念ながら、私どもへの御相談も途切れることがありません。

でもその原因には、組織における意思の疎通、つまりコミュニケーションの不足もあると感じております。

とりわけ上司と部下の関係においては、「報連相」、なかでも中間報連相における相談、質問、確認のプロセスでの思いの共有、目的の共有が足りていない為、トラブルになっているように感じることがあります。

ルールであるサインはあくまで手段。肝心なのはその先の目的であり、そこに思いの共有がなければ、

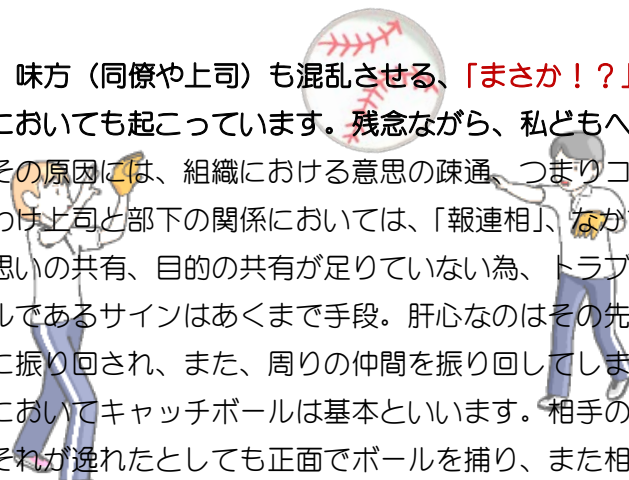
手段に振り回され、また、周りの仲間を振り回してしまう選手になってしまいます。

野球においてキャッチボールは基本といえます。相手の胸に向かってボールを投げ、多少それが逸れたとしても正面でボールを捕り、また相手の胸にボールを投げ返す。

**「報連相」はまさに、職場におけるキャッチボールだ**と思うのです。

ちなみに、問題の1塁ランナーの後日談ですが、その後大阪の高校野球では強豪と

される高校に進学し、1年生からベンチに入る選手となりました。＼(o^)/



所長、想定外のホームラン打って〜!(笑)

よっしゃー  
まかしとぎー!  
…ん!?

アヴェニール労務事務所

未来は変えられる!

avenir